

講義科目 : 政治思想史	単位数 : 2
担当 : 井口 吉男	学習形態 : 選択科目

講義の内容・方法および到達目標

ヨーロッパの著名な思想家の政治思想を中心に講じていく。現代は政治・行政のしくみが複雑化した時代である。けれどもむしろこういう時代だからこそ、いにしえの思想家たちが世に残した古典的著作をひもとき、政治について根本的かつ原理的な考察を行うことがよりいっそう大切になってくるのではなからうか。

各々の思想家がその時代の課題とどう向き合い、どのような政治社会を構想したのか検討することは、今日の政治のあり方を考える上で、また今後の政治のヴィジョンを描く上で重要な作業である。

受講生にはこの講義を通して、政治の領域において「自由」であるとはどういうことなのか、「デモクラシー」（民主主義）を内実あるものにするにはどうすればいいのか、今日の日本の社会において「市民」であるとはどういうことなのかといった事柄について思考する習慣を身につけるようにしてほしい。

授業計画

以下の予定で進めていく。

- 第 1回 ガイダンス
プラトンの政体論
- 第 2回 ストア派における「個人」と「国家」
- 第 3回 マキアヴェリの君主論
- 第 4回 カルヴァン——「神」と「政治」
- 第 5回 ホッブズと「リヴァイアサン」
- 第 6回 ロックと市民政治
- 第 7回 モンテスキューと権力分立
- 第 8回 ルソーと「一般意志」
- 第 9回 スミスと「自由放任」
- 第10回 バークの保守思想
- 第11回 トクヴィルと大衆社会
- 第12回 マルクスと共産主義
- 第13回 ヴェーバー——「信条倫理」と「責任倫理」
- 第14回 西欧政治思想における「自由」
- 第15回 現代の政治思想

教材・テキスト・参考文献等

教科書は特に使用しない。

成績評価方法

定期試験（100点）を基本とするが、平常の受講姿勢も加味する。
毎回、出席をとる。5回を超える欠席をした場合、評価対象外となる。

その他

西欧政治思想の世界の奥深さを味わってほしい。